

平成29年度規格部会報告

日本プラスチック工業連盟の規格部会では、ISO/TC61（プラスチック）、ISO/TC138（プラスチック管・継手）及び電気材料安全の規格に関する活動を行っている。例年、規格部会の会議が年1回3月に開催され、当年度の実績及び次年度の計画について報告・審議される。以下に、平成29年度の実績と平成30年度の計画について概要を示す。

1. 国際幹事国引き受け

ISO/TC61及びISO/TC138は、日本プラスチック工業連盟が国内審議団体となっている。

ISO/TC61の傘下に11個のSCがあり、そのうち3個のSCは日本が幹事国となっている。ISO/TC138については、TC138及びTC138/SC8で日本が幹事国である。日本が幹事国となっているTC及びSCを下表に示す。日本は全部で5個の幹事国を引き受けており、日本のプレゼンスを示している。

表一 日本が幹事国となっているTC、SC

TC、SC	タイトル
TC61/SC11	プラスチック製品
TC61/SC12	熱硬化性樹脂
TC61/SC13	複合材及び強化用繊維
TC138	プラスチック管・継手
TC138/SC8	配管更生

2. 年次会議への出席、開催

ISO/TC61、ISO/TC138いずれも、年1回年次会議を開催している。開催期間は一週間（月曜～金曜）である。年次会議では、TC、SC及びWGの会議が開催され、規格の開発段階の進捗承認等の重要な決議が行われる。ISO規格の開発を行うには、年次会議への出席は不可欠である。

2017年のTC61の年次会議は9月に韓国のテジョンで開催された。全体の参加者数が約200名に対して、日本からは約80名という多数が出席した。TC138の年次会議は10月にスイスのプロトゥレンにて開催され、全体の参加者数110名に対して、日本からの参加者は13名であった。

2018年のTC61年次会議は、日本のさいたま市で開催されることが決まっている。現在、開催に向けて準備中である。

年次会議開催にはメンバー国からの開催国（ホスト国）の申出が必要である。日本は2016年のTC138年次会議及び2018年のTC61年次会議を日本で開催することを申し出た。2016年のTC138年次会議は既に京都で開催した。今後、日本としてはTCの年次会議を日本で定期的に開催する必要があると思われる。

3. 国際標準化活動

ISO規格関連の業務としては、1) 開発段階を進捗させるため又はISO規格の定期見直しのための投票 2) 日本提案の標準化開発 及び3) 幹事国業務がある。

平成29年度はTC61関連では194件、TC138関連では123件の投票を行っている。同様な投票件数が平成30年度も見込まれる。

TC61では、平成29年における開発中の案件の内、日本提案が基になっている件数は全体の約30%を占めており、日本の存在感は大きい。日本提案の例としては次のようなものが挙げられる。

- －プラスチックの分光老化試験方法
- －低重力環境でのプラスチック燃焼性評価方法
- －熱可塑性複合材料の接合特性評価方法
- －高速引張試験方法
- －プラスチックの非接触熱分析法

一方、TC138では、平成27年度より「耐圧ポリエチレン管」に関する日本提案を行い、規格開発を行っている。平成30年度は上記開発テーマを継続すると共に、新規テーマを発掘する計画である。

幹事国業務とは、幹事国を取っている TC または SC を運営する業務のことであり、選任された議長及び幹事が業務を行う。具体的な業務としては、投票の設定、年次会議の運営、メンバーへの情報発信等がある。対象となる案件はその TC 又は SC に所属するすべての国からの提案である。

4. JIS の開発

国際規格である ISO における標準化活動を行うと共に、国家規格である JIS の開発を行っている。

ISO 規格と内容が対応するように JIS を作成している。日本プラスチック工業連盟では、TC61 及び TC138 の分野の JIS の作成を行っている。

平成 29 年度は前年度からの継続案件も含め 5 件の JIS 発行に至った。平成 30 年度はこれ以上の件数の JIS 発行を見込んでいる。

5. 電気材料安全

電気製品に使用されるプラスチックの安全性と信頼性に関する情報を得るために、日本プラスチック工業連盟（連盟会員）は、IEC 規格、UL 規格等の国内委員会に参加している。平成 30 年度も平成 29 年度と同様に、各国内委員及び国際会議に委員を派遣し、工業連盟内で情報を共有し、各企業にて材料開発等に反映させる予定である。

(以上)